



うちの「宇宙の学校」

松江・安来教室
事務局 高須佳奈 (島根大学)

島根県の松江市と安来市で展開している宇宙の学校に、私たちは「宇宙の学校 松江・安来教室」と名付け、2011年度より活動しています。松江・安来広域連携事業実行委員会を主催とした教育事業の一環で、共催機関として島根大学教育学部が加わり、地域と大学の連携のもとで宇宙教育を展開しています。

私自身は科学教育・地質学を専門とし、十数年来、文化としての科学や多角的な科学の見方を探り、科学実験教室を通じて教育実践を行ってきました。ですので、くらしの延長線上に宇宙といのちをおき、科学的思考を育てる宇宙教育の理念になじみやすかったように思います。一方で、この松江・安来教室では、大学という教育研究機関が携わっているからこそできることに挑戦しなくては、と思っています。それは、宇宙の学校の取組の成果を分析・検証し、一方で新しい取り組み方を模索することであり、それらを一実践地から全体に還元できるようにと考えています。…まあ、平たく申し上げれば、教材について、またその取り組み方について、とにかくいろいろとチャレンジしてしまうのが、私たち松江・安来教室の一番の特徴だと(私は)思っています。宇宙の学校のテキスト

から着想を得ながら、海岸で野外活動をしたり、竈でご飯を炊いてみたり、大学構内で「太陽系散歩」を試してみたり、惑星カードゲーム(?)まで作ってしまったり…まわりの大学生たちともいっしょになって、学びを引き出す手立てや仕掛けを毎回(四苦八苦しながら)考えています。2014年度は、課題解決型学習に本格的に取り組み、スクーリングからできる多様な他者との学びを、子どもにも大人にも味わってほしいと思っています。

松江・安来教室のもうひとつの特徴は、「宇宙の学校 松江・安来教室通信」の発行です。A4片面の小さなお便りを、スクーリング後に参加家庭に郵送しています。家庭で通信を手にしながらかスクーリングを振り返る…そんな家族の会話を思い浮かべながら、関連する実験や時には舞台裏のどたばたなども盛り込んで本業の仕事の合間に紙面にしています。スクーリングで「読みました!」と言っていたことも多く、通信の



存在は、事務局(松江市と島根大学で形成)と各家庭との距離を縮めるとてもいい接着剤だと、実感しています。

松江・安来教室の活動に興味を持ってくださった方、ぜひスクーリングに遊びに来てください。



KU-MA とわたし



素晴らしいご縁に恵まれて
浅見 照美
平成20年から「宇宙の学校・テキスト」のイラスト制作や、編集作業を担当させていただいております。

KU-MAの副会長でいらつしやる遠藤先生が、立川市内の中学校で校長在任中、私がPTA広報委員や、PTA会長を勤めてからのご縁で、イラスト制作のお声を掛けていただきました。当時のパイプをとおして、一人で教育委員会へ、立川での宇宙の学校開催のお願いに参上し発足。以来ボランティアスタッフとしても活動しております。15年以上のご縁に感謝です。

さて私は4人の子どもを育てたことから、PTA活動の期間が長く続きました。それらを卒業する頃に、漠然と「子育てはもちろんだ、これから親育てのお手伝い」ができれば良いなと、大それたことを思っておりました。あと一つ、私が20代早々に、実母は病魔と壮絶に闘い、亡くなりました。看取った辛い経験から「命の重さを伝えたい」という思いは、ずっと胸中にありました。



▲立川「宇宙の学校」開催模様

名誉会長の川先生は「広い宇宙にあって自分が今ここで生きているのは、命が受け継がれ、実は奇跡なのだ」とおっしゃいます。さらに宇宙の学校は「親子で学ぶところ」がコンセプトの一つです、共感できることの多い宇宙の学校の理念に沿って、細く長く、地域の皆さんのお手伝いをできればと思います。



▲開校式受付模様 “はい、教材です”

最後に、「教材が一冊出来上がるまでの過程」を書かせていただきますしうか！
教材開発委員会に属する先生方が持ち寄られたテーマを遠藤先生が集約され、私用に細かに砕いて解説いただき、イラストに仕上げております。それらは漠然と知ってはいたり、また、これまで無縁の世界の内容だったりと、新たな発見と緊張の連続です。難解なテーマや、描き直しが幾度もある時はさすがに困りますが、一字一句、スペシャリストから個人教授していただく私は、かなり得をしていると、誇りに感じております。

「宇宙の学校」と教材 III
テキストについて
副会長 遠藤純夫

突然、子どもから「お月様がついてくる」と、「気づき」をぶつけられたことがあると思います。歩いて、歩いて振り向くとお月様がいます。そういう経験は誰にもあつたはずですね。そして、いつの間にか月を意識してみることさえ無くなっている自分に気づきます。賢いお母(父)さんなら、子どもと一緒に駆けついたり、来た道を引き返してみたりして、お月様の振るまいを確かめてみたりするのではないのでしょうか。まさか「それはね」などと解説したりはしないでしょうね。

家の近くにあるコンビニからの帰りに、走ったり、止まったり、月と戯れている親子に出会ったことがあります。「お月様がついてくる」理由は、子どもが段階を追って知識を重ねれば、親と遊んだ不思議な体験がよみがえり結びつくときがあるでしょう。

いま大切なことは、子どもの「気づき」に興味を示し、関心を寄せること、不思議と一緒に確かめることなのです。

子どもの「なぜ、どうして」などに、「同じことが他にないかな(再現)」
「つくってみようか」
など、子どもの目線で不思議を共感し、おもしろがってみましょう。

宇宙の学校のテキストは、子どもに向けたテキストという形をとっています。先に述べたような親子の学びを期待して作成されています。

学びのきっかけは、子どもの「なぜ、どうして」からだったり、そばにいる大人がそれとなく仕掛けることもよいでしょう。このテキストが家庭の中で学びを創り出すきっかけになるといいと思っています。そういうわけで保護者必読の指導書なのです。

年に数回みんなで集まる「宇宙の学校」は、宇宙の学校のスクーリングと位置づけて、親子が家庭で学びを展開するための実習の場にする予定です。ここで保護者が先生になる体験をし、それを家庭に持ち帰ってくださることがねらいです。

配布したテキストなどを活用して家庭で継続してもらえたら何よりです。宇宙の学校は各家庭にあるのです。



「宇宙の学校」テキストは JAXA 宇宙教育センターのホームページから全てダウンロードできます
<http://edu.jaxa.jp/materialDB/>